

令和7年度中部ブロック再犯防止シンポジウム 2025.12.21(日)

@名城大学ナゴヤドーム前キャンパス

立ち止まっても人生は変わるし、進んでも人生は変わる。

でも、

進まなきゃよかったと
ずっと思ってる。

こうした思いを抱えながら
今立ち直ろうとしている人がいます

“特殊詐欺×若者”

この社会課題をきっかけに
再犯防止について一緒に考えてみませんかー

日時

令和7年
12月21日(日) 13:30~16:30 (12:30開場)

会場

名城大学ナゴヤドーム前キャンパス南館1階(DSホール)
※公共交通機関でお越し下さい。JR中央本線・名鉄瀬戸線「大曾根」駅から徒歩約10分
地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」駅から徒歩約4分

《プログラム》

第一部：パネリスト講演

原田知佳氏(名城大学人間学部教授)

渋谷幸靖氏(NPO法人陽和理事長)

尾崎昭裕氏(愛知県警察本部生活安全総務課)

礪波雅人氏(瀬戸少年院法務教官)

特殊詐欺に加担した経験
のある若者もVTRで登場

第二部：パネルディスカッション・Q&Aセッション

法務省
中部ブロック再犯防止シンポジウム
民間協力者による社会課題解決としての再犯防止の取組



【参加者】381名

再犯防止

【非行・犯罪を一度起こしてしまった方】

つながりものは
何ですか?

民間協力者

【シンポジウム参加者一人ひとり】

対話
ができる
関係

VTRの当事者少年作



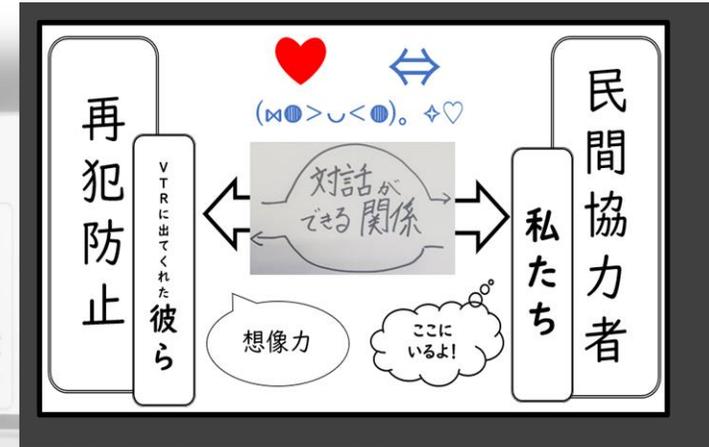
【第1部】講演



併せて、

特殊詐欺に加担した経験のある元少年院在院者のインタビュー映像も上映しました。

【第2部】パネルディスカッション・Q&Aセッション
&ワーク



Q&Aセッションでは学生の方からの質問もいただきました。

登壇者を含む参加者一人ひとりに、

第1部【講演】

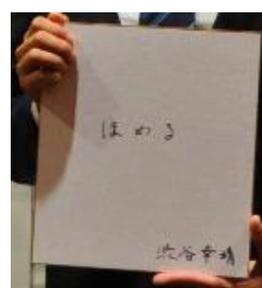
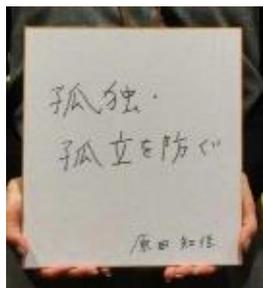
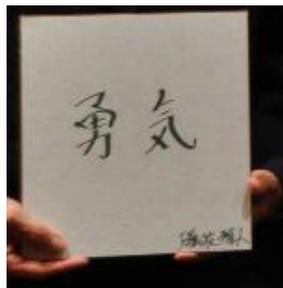
第2部【パネルディスカッション・Q&Aセッション】

を通じて、

【再犯防止】と【民間協力者】をつなぐものを考えて

付せんに記載していただくワークを実施しました。

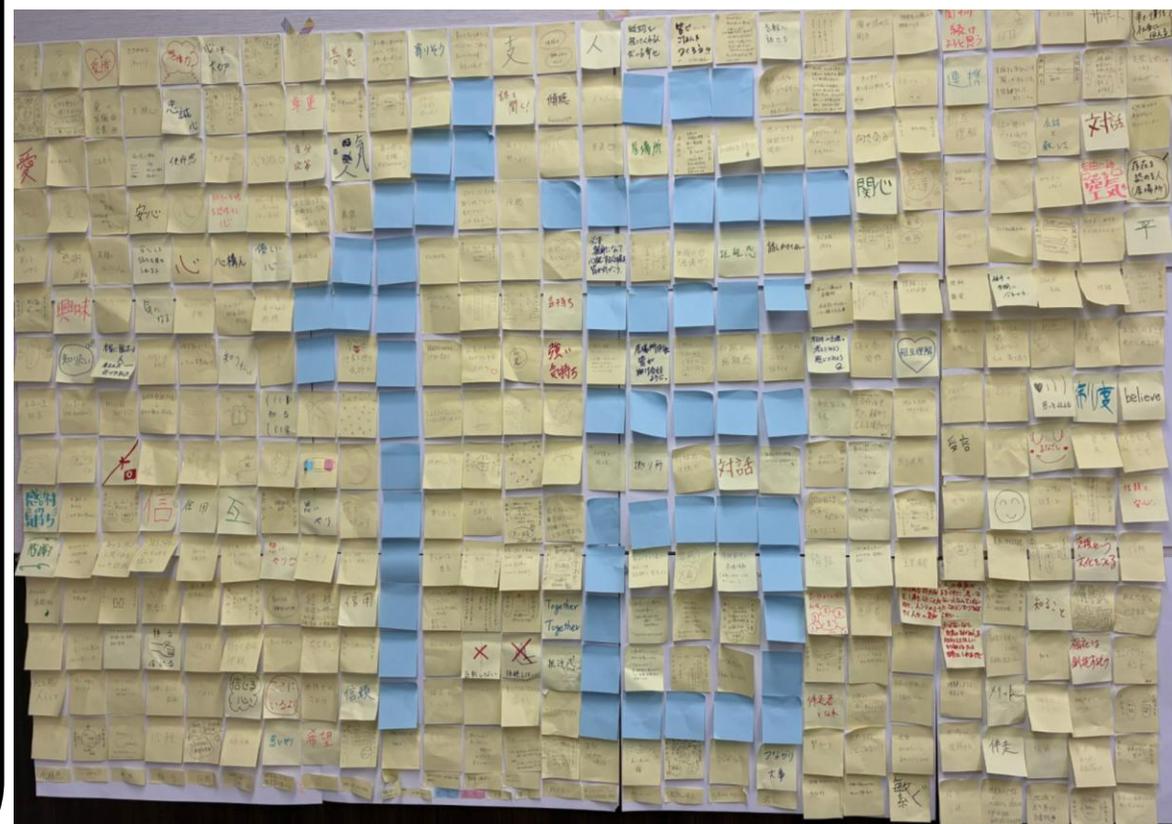
【登壇者の方の「つなぐ」もの】



ワークにおける付せんの提出枚数は、全373枚。

最も多い「キーワード(カテゴリー)」は…

「信(用)」「信(頼)」など、「信」を使用したものでした。



ワークの結果(カテゴリー)
(付せんの枚数)

【場所(食事)】
(2)

【対話・相談・
会話】
(17)

【支援・
サポート】
(7)

【理解】
(23)

【絵】
(24)

【信(頼)】
(27)

【感謝】
(3)

【今ここ】
(4)

【気持ち】
(9)

【同じ】
(18)

【知る】
(13)

【興味・関心】
(18)

【可能性】
(8)

【偏見・
差別】
(12)

【知識・
距離感】
(6)

【受
(容)】
(5)

【聞く・
聴く】
(7)

【居場所】
(13)

【対等・
相手】
(7)

【みる・
みつける】
(6)

【繋がり・
継続】
(13)

【勇気・挑戦・
一歩】
(14)

【人】
(10)

【安心】
(8)

【伴走】
(9)

【心】
(13)

【寄り
添い】
(10)

【信条】
(12)

【社会・
制度】
(7)

【愛】
(12)

【互い・共に・
一緒・共有】
(18)

【おもいやり・
気にかける】
(8)

【関係性】
(10)

19年秋 出陣後に
お前の子供達へ
お前の子供達へ
お前の子供達へ

皆で
ごはんを
つくろう!!

**場所
(食事)**

心の傷を
放置しない

ほめてほしい
ほめてほしい

**みる
みつける**

目

笑顔
まはし

知識と
距離感

**知識・
距離感**

距離感

支援する側の心は
「聞く」があること
支援者が知って
おくこと。

知識を持つ
b

正しい知識を持つ

聞こう!
聴くよ!

傾聴の
傾聴の
傾聴の

話を
聞く!

聞く

聞く

傾聴

傾聴

聴く

安心

守心して
弱みを見せ
られる人

笑顔で
こころ

安心

笑顔

安心感の確保

士とやかな

笑顔

感謝

感謝の
気持ち

感謝

感謝

誰もが
主役

対等

相手の
歩調に
合わせる。

対等

対等な
友達のよつち
関係

相手

相手の立場で
考えてみよう。
感じよう。

絵

絵

地域で
立ち直り
支援する!!

お互いを
知ろうとする
気持ち

気持ち

強心
気持ち

他者を想う
気持ち

気持ち

強心
気持ち

同じ

みんな同じ
人間である
という認識

同じ人間

みんな同じ
人間として

平

知る

皆に困る人
居る人
気づかす人



知りたい

知る
思い
抱く

知る
思い
抱く

知りたい

知ること

知る
(11D)
(11E)

よ

花へ眼を注ぐ
こころ、灯を
照らす
心

り

寄りそう

そ

お互いに
歩む
寄り添う

い

寄

寄り添う
手袋
(再)こぼさない

り

寄り添う心

添

積極的に
たがひ寄添う

い

よ

再犯防止
寄り添う
心

そ

待つこと
聞くこと
思いこまない
こと 寄り添う

り

い

居場所

存在を
認める人
(居場所)

話が聞ける、
できる場所

居場所を作る
皆が
助け合える
ように。

拠り所

IDG.sと
共に解明
合える場所

居場所

地域の力
(居場所)

加害者・被害者
共に孤立させない



安心して暮らせる
居場所
生活苦にならない
くらい稼げる仕事

私たち
と寄り添う
居場所
再犯防止

再犯防止
被害者支援
加害者支援
民間協力者

いかに
いない

見捨てる

知ること
居場所
再犯防止

知ること
居場所
再犯防止

フタコリ
大事

伴走者
とねれ

伴走

福祉は
創造力

知ること

居場所

『再犯防止』と『民間協力者』—犯罪・非行をしてしまった“彼ら”とシンポジウムに参加する“私たち”一人ひとりをつなぐもの
参加者の皆様に【絵】や文字、記号などで表現していただきました。

その結果から…

再犯防止に向けて、“彼ら”と“私たち”は【同じ】【人】であることを前提とし、【差別】や【偏見】なく、それぞれが【勇気】をもって【挑戦】の【一歩】を踏み出し、【気持ち】を【共有】したり、【互いに・共に・一緒に】【受(容)】したりしようとする事を通じて、【信(頼)】関係を構築していくことが重要であると気付かされます。

そのためにまずできること、それは“私たち”が“彼ら”と【対話】【相談】【会話】を通じて、【対等】な立場で向き合い、【相手】のありのままをそっと【みる・みつける】、その声を【聞く・聴く】、そして少しずつ【知る】ことで【興味・関心】を抱く、持っている【可能性】に気付く、【寄り添い】、【おもいやり・気にかける】ことができるようになる—そうしたことを重ねる中で、相互【理解】を深めていくことではないかと教えていただきました。

これは、自身の【信条】や“彼ら”についての【知識】を携えながら、適切な【距離感】で【伴走】することを通じて“私たち”一人ひとりが“彼ら”を【支援・サポート】する存在になり得るという示唆とも捉えることができるのではないのでしょうか。

“彼ら”と“私たち”の間に互いへの【感謝】が生まれ、様々な【心】と【愛】が行き交うような【関係性】や【繋がり】が【継続】されることで、“彼ら”にとっても“私たち”にとっても【今ここ】が【安心】できる【居場所(場所)】となるような【社会】を、【制度】の後押しも受けながら築いていくことが望まれていると感じられました。

御参加いただきました皆様、ありがとうございました。
再犯防止にはより多くの方の支援と参画が必要です。

引き続きご理解とご協力をよろしく申し上げます。



中部矯正管区更生支援企画課
再犯防止推進キャラクター
「更生しえんじえる」